様式3

令和7年度　香南市認定こども園評価報告書

香南市立夜須こども園

経営理念	
【教育・保育目標】	すこやか　やすのこ　げんきなこ
【　経営目標　】	『乳幼児の育ちを大切にし、豊かな体験を通して生きる力の基礎を培うこども園』をめざす。
〈　子ども像　〉	○自分のことを自分でしようとする子ども　○自分も友達も大切にする子ども　○自分の思いを素直に表現する子ども
〈　こども園像　〉	○心も体も元気な子どもが楽しく生活する園　○基本的な生活習慣を身に付け健康な子どもが育つ園　○保護者や地域に信頼される園
〈　職　員　像　〉	○子どもとの信頼関係を大切にする職員　○豊かな人間性と専門性の向上に努める職員　○互いに認め合い協働する職員

中期経営目標		今年度の重点目標	評価項目	自己評価 達成状況	評価	学校関係者評価 考察	評価	改善策等
☆保育・教育活動の充実	幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿った教育活動と、子どもの発達に即した指導を展開し、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を育てる。	子ども自ら主体的に遊びや生活を進めていくための保育内容の工夫をする。	① 子どもと共に遊び、一人一人の幼児の内面を理解する（研修～資質向上の取組～）	園内研やブロック研の日案や月週案作成を通して、担任間で連携し子どもの内面理解を深めようとする意識が高まり、環境構成や子どもの姿から保育者の援助について工夫することができた。また、研修や協議を重ねることで、環境構成や援助の視点で分析を行い、それぞれの課題と向き合い保育内容の改善に努めたり、子どもの育ちを多面的に捉え、指導の見直しにつなげたりすることができた。	B	様々な研究を通して、環境構成や保育の工夫ができており、職員の保育を見る目が上がってきていることは評価できる。職員一人一人の向上していきたいという意欲があり、さらなる質の向上に期待する。	B	会計年度任用職員も含めた話し合いや研究を計画的にしていき、引き続き、学びを活かし内面理解の継続をしていく。また、子どもの発達にあった遊具や用具、園庭の環境づくりや様々な動きができる運動遊び等の教材研究を進めていく。
			② 子どもが意欲的に遊びを進めるための園庭の環境づくりをする。（園庭の環境）	子どもたちが思いっきり体を使った遊びができるよう事前打ち合わせをすることで、年齢ごとで遊びの保証をすることができた。また、園庭の環境や教材について、他クラスとの保育を共有することができ、学年間や異年齢で、子どもが意欲的にものや人、コトに関わり遊ぶようになってきたことは成果である。しかし、子どもと共に環境の再構成をすることや発達に合った用具や教材であったかは十分ではなかった。	B	身体を使った遊びや異年齢での遊びの充実を図ることができているが、引き続き、限られたスペースの中で、環境を作り、遊び方や時間の使いかた、子どもの発達に合わせた用具や素材など教材研究を行いながら、園庭の環境づくりについて話し合いを重ねていってください。	B	
			③ 子どもが自ら身体を動かそうとする意欲を育むための遊びの工夫をする。（体力向上・体を動かす楽しさ）	身体を動かすことが楽しめるように、室内外の環境を工夫したり保育者も子どもと一緒に楽しむことができるよう体を動かしてきたことで、様々な動きを試す、何度も繰り返すなど意欲的に遊ぶ姿につながった。「お子さんは、身体を動かす遊びを楽しんでいると思いますか」に「そう思う」「ややそう思う」と答えた保護者は、98,5%であった。	B	環境の工夫や保育者も一緒に身体を動かすことで、運動遊びに意欲的になっているのは素晴らしい。保護者からの満足度を考えると、もっと評価をしても良いのではないでしょうか。また、身体を使って脳で考えた遊びや動きをしていくことは大事と言われ始めている。次年度より取り入れてみてはどうか。	A	
◆職員の育成・資質向上や運営	園務分掌が適切に機能し、子どもたちのために教職員が互いに協働する風通しの良いこども園を構築する。	防災対策と安全教育の向上に努める。	① 危機管理	低年齢では、非常ベルや地震速報を聞き避難カーまで行く、防災頭巾を嫌がらずにかぶるようになった。また、幼児では、危険な状況が見られたらすぐに保育者に知らせるとともに子ども同士で声を掛け合う、私語が減り真剣に取り組む、担任以外の保育者の指示を聞き適切な行動をとるなどの姿が増えてきた。年齢や個人差に応じた伝え方の工夫や安全確保のための視覚支援など援助や環境、一定の職員の声掛けのみであったり指示がないと動けなかったりすることなど引き続きの課題である。	C	研修や訓練を通して、保育者の指導力が高まってきている。抜き打ち訓練を行う新たな取り組みもされている。危機管理に取り組む姿勢や成果の表れだと思います。今後も新たな取り組みをしていってほしいと思います。	B	引き続き、抜き打ちの避難訓練を行ったり、通報や誘導を全職員が経験できるようにしたりするなど、職員間で意識を高めていき、防災対策と安全教育の向上に努める。また、想定外のことが起きた時に臨機応変に対応できるようあらゆる想定を考えたり二次避難を行ったり、また、備蓄倉庫や避難リュックの中を定期的に確認するなど新たなことも取り入れていく。
			② 安全管理	幼児は、避難訓練のたびに命の守り方の話をすることで、火災は手で口と鼻を覆うこと、地震はカエルのポーズをするといった態度や行動が身に付いてきた。引き渡し訓練を2回行い、家庭を巻き込んだ取り組みができた。保護者アンケートでは「園は、防災教育や安全対策に取り組んでいると思いますか」に対し「そう思う」が83,1%の評価を得た。	B	取組に対して保護者から高い評価を受けていることは評価できる。引き続き、職員間の意識を高めていってください。	B	
◎地域に開かれた園づくり	保護者や地域に開かれた園づくりに努め、信頼されるこども園を確立する。	保護者や地域に対し、園の取組、子どもの学びや発達が伝わるような情報発信を行う。	① 伝わるクラス便りやドキュメンテーションの工夫	すぐーるの活用、ドキュメント、クラスだより、個人懇談、登降園時等に、楽しんでいることや成長の過程を意識して保護者に伝えてきたことで、保護者と子どものことについて共有する時間が増加傾向にある。行事等の情報提供が遅かったり、わかりやすく伝えることには課題が残った。	C	様々なツールを活用し、分かりやすく情報発信ができている。すぐーる活用での働き方改革、合理化を進めていってほしい。	B	行事のお知らせが遅い時があったため、早く知らせていくことや情報発信をしながら、保護者と子どもの学びや育ちについて話をする時間の確保をしていき、信頼されるこども園を確立するようにしていく。また、引き続き、整理整頓を意識しながら、個人情報の取り扱いを徹底していく。
			② 適切な情報発信と管理の徹底	配布物には必ず目を通す、すぐーる活用をする、書類はファイルに分け綴じてまとめる、また、園内での報告、連絡、相談を常に徹底してきた。また、終礼ノートや引継ぎノートを取り入れ、職員間での情報共有や個人情報の管理はできた。整理整頓には課題が残った。	B	個人情報の取り扱いは、徹底しておいてください。	B	

【評価基準】Ａ：十分満足（９０%以上）　Ｂ：おおむね満足（７０%～９０%）　Ｃ：もう少し努力すべき（５０%～７０%）　Ｄ：大いに努力が必要（５０%以下）